

COLUMN

夏のドイツ派遣

飯塚 拓也

総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻

極端紫外光研究施設 (UVSOR)・光物性測定器開発研究部門・木村グループに所属しております総合研究大学院大学D2の飯塚と申します。

このコラムでは、私が2009年7月に総研大の海外学生派遣事業の支援を受けて、ドイツ・マックスプランク固体化学物理研究所 (MPI-CPfs) にて過ごしてきた研究生活について書きたいと思います。実際の研究成果については、すでに海外学生派遣事業実績報告書として総研大のHPより閲覧できます (<http://www.soken.ac.jp/education/haken/pdf/h21iizuka.pdf>) ので、研究内容以外のことに焦点を合わせて述べたいと思います。また、このコラム欄の前任の方のものを参考として読んでみますと奔放に書かれている方もおられますので、堅苦しい文章は避けて書こうと思います。

すべての始まりはその年の4月、私の担当教員である木村真一准教授から掛けて頂いた一言からでした。「派遣先の当てならあるけど (海外学生派遣事業に) 応募する?」というもの。後は「ゼヒユキタイデス」と唱えればよいだけの、絶好のチャンスです。総研大の入学時にこのような事業があることは知っており、また他大学では経験できないことだと思い、一機会があれば是非活用したいものだ—と頭では考えていたのですが、いざ言われた時には流石に怯みました。何しろ私は海外渡航の経験が乏しく英語力も岡崎三機関で開講されている英会話コースであたふたしているほどであったので、1ヶ月

の間、世界的に有名な研究機関に単身乗り込むということに不安で一杯になりました。しかし今振り返っても行って良かった。行って良かった。

いざ決めてしまうとそれからの準備は流れるように進んでしまうもので、(周りには大変な迷惑をかけながら) 本人としては比較的スムーズに準備ができたと思っております。

派遣先は、木村先生と以前より共同研究を行っている Jörg (ヨーク) Sichelschmidt 先生の研究グループで、場所はドレスデンのマックスプランク固体化学物理学研究所です。

行きの飛行機が、発券ミスのおかげで (?) エコノミーからビジネスクラスにランクアップするという、実に幸先のいいスタートで私のドイツ研究生生活が始まりました。フランクフルトで国内便に乗り継ぎドレスデンへと到着。この空港に、ヨーク先生の研究グループの学生である Herzog (ハルツォック) 氏が迎えに来てくれました。

彼は私の帰国後に、夏休みを利用して EU 最北端の North Cape までおよそ 6000 ㎞の道のりをバイクで往復したり、友人たちと画期的なビール瓶の王冠の開け方を集めた動画を作り某動画サイトに投稿したりと、なかなかの愛すべきファンキーな人間です。私も彼に師事したおかげで、どこでもビール瓶の王冠を開けることができるようになりました。

いづか・たくや

2007年から特別共同利用研究員としてUVSOR木村グループに所属。翌年総合研究大学院大学構造分子科学専攻に3年次編入。主に圧力下での反射率分光法などを用いて、強相関電子系物質の量子臨界点近傍に現れる電子構造変化の起源解明に向け取り組んでいる。写真はMPIの大講堂前にてMax Planckの肖像と撮影。



彼とはその後もメールのやり取りをしており、互いの近況から検出器の改良方法まで連絡を取り合う仲になりました。この派遣で得られた大きな宝です。

MPIはドレスデン中央駅からトラムで4駅のところに位置しており、隣接施設にはドレスデン工科大や情報学研究所等があります。工科大の時代が漂う建物とは対照的に、道路を挟んだ向かい側のMPIや情報学研究所の近代的な建物が印象的でした。私は煙草を吸うので、今回の派遣で心配していましたが、有難いことにMPIの建物中央のこれまたパステルカラーな温室テラス3階に喫煙場所がありました。また所内の方は、多国籍であるからかとても社会的で話しやすく、コーヒーサーバーの前やこの喫煙所で楽しく雑談をすることができました。このように気さくに話しかけて頂いたおかげで私の緊張もだいぶ和らぎました。私の所属している木村グループやUVSORでは、しばしば海外から研究者の方を中・長期間受け入れることがあるので、この滞在期間の経験を踏まえてより良い対応ができればと思います。

MPIの平日は朝の8時から活動が始まり、夕方は5時くらいになると殆どの方が帰られます。最初のころは郷に入りてはという事で、この時間に合わせていましたが、宿舎の工科大の寮に帰ってもやる事が無く、持参した文庫本も3日で読み終えてしまいました。結果、夕食を食べた後に再び研究所に行き、滞在最終週の国際学会に向けてのポスター制作などをし、日が沈み始める夜10時ころに帰り、16階の寮の自室から、暮れゆく空と街並みを眺めながらビールを飲む……というリズムを編み出すに至りました。やはり国民性なのか中国からの学生さんは夜10時

くらいでも見かけられ、妙な親近感とともに手を振りあつたりしました。

今回の派遣では、訪問する先々でコーヒーカップをお土産に頂き、最終的に3個のコーヒーカップを携えての帰国になりました。現在そのコーヒーカップたちは、MPIのものは長野県のある村に住む父のもとに、放射光施設BESSY-IIのものは東京に住む兄のもとにあります。

この場を借りて、岡崎で参加している英会話コースのJeremiah Sechrist先生にお礼を述べたいと思います。このコースに参加していたおかげで、スタックすることもなく楽しく会話すること

ができましたし、コースで出てきた英会話のフレーズが大変役に立ちました。

分子研/総研大はこのように出会う“機会”というものが、量・質ともに優れているように感じます。研究者として見たときのみならず、大学院として見た時も、他に比べて魅力的な点が多いと思います。それは歴代のこのコラムを読み返してみても多くの方が触れられている通りです。私の今回の場合では英会話コース然り、この派遣事業然りです。このたびの海外学生派遣事業という得難きチャンスに巡り合えたことに感謝をし、次のチャンスも逃してなるものかと目を光らせていく所存で御座います。

E V E N T R E P O R T

学生報告 平成21年度後期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 石山 仁大

10月8日から二日間に渡って総研大葉山本部にて入学式ならびに後学期学生セミナーが開催されました。今年度は初日に台風18号が接近した影響でセミナーの開催自体が危ぶまれましたが、新入生大半の参加の下で無事開催されました。

10月入学の新入生は過半数が外国人留学生であるため、セミナーは全て英語で行われました。これを敬遠したのか、日本人学生の参加率が低かった（新入生10名中3名のみが参加！）ことが残念でした。セミナーの主題は“Unity & Identity”であり、

異文化・異分野交流を意識した内容でした。2名の外国人講師による講演および主題に関するフリーディスカッションが行われ、“Unity & Identity”について大いに考えさせられました。また、夕食懇談会および2つのアクティビティも催

され、留学生の人たちとの相互理解を深めることが出来ました。私自身は英語に不安があったために、セミナー開始当初はどうなることかと思っていましたが、いざとなれば言葉の壁はどうにでもなることが分かりました。今回のセミナーは自分自身について考える良い機会になったと思います。

最後になりましたが、今回のセミナーを企画・運営して下さった総研大の先輩方並びに先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

Norihito Ishiyama

金沢大学自然科学研究科博士前期課程修了後、民間企業勤務、分子科学研究所研究生を経て、平成21年10月総合研究大学院大学物理科学研究科に編入。
分子スケールナノサイエンスセンター平本グループにて、有機薄膜太陽電池の研究に取り組む。豊橋市出身。

